



# 白隠の生涯（上）

## 二度の大悟と 菩提心の疑い

柳 幹 康

白隠は禅の修行に励んで悟りの体験を重ね、己が境界を高めるとともに、人々を広く救済する利他行の道を歩きました。これから三回にわたり、その生涯について見てまいります。

白隠が生まれたのは今から時を遡ること約三百三十年、貞享二年十二月二十五日（西暦では年が明けて一六八六年一月十九日）のことです。生家は駿河国原宿（現在の静岡県沼津市原）の長澤家、幼名は岩次郎<sup>いわじろう</sup>。長澤家には三男二女があり、岩次郎は三男でした。幼い頃より記憶力が良く、体格にも恵まれましたが、生き物を殺すなど粗暴なところがあったそうです（『年譜』）。

長澤家は代々仏教を奉じており、岩次郎の母も熱心な仏教徒でした。岩次郎は十一歳の時、母に近くのお寺に連れて行かれ、そこで

聞いた地獄の話に衝撃を受けます。日頃の己

が不行状を省みて、死後に地獄に堕ちることは免れぬと恐怖し、全身の毛が逆立ったのでした。

その後岩次郎は天神に祈ったり靈驗あやふたかという『法華經』を唱えたりしますが、地獄への恐怖は消しがたく、やがて出家を志します。当初は反対されたものの、ついに両親の許しを得て、十五歳の時に近くの松蔭寺で出家しました。出家の師は父と縁がある臨濟宗の禅僧單嶺たんにせう祖伝そでんで、岩次郎は彼より慧鶴えいかくという法名（出家者としての名前）を授かりました。これに対し白隠はくいんというのは、後に得た道号どうごう（出家者の号）です。

さて、念願の出家を果たした白隠でしたが、ほどなく禅にも仏教にも失望してしまいました。その主な原因となったのが、次の二つの

出来事でした。

第一が十六歳の時、最高の經典と称される『法華經』に失望したことです。『法華經』には幼い頃から部分的に親しんでいましたが、出家後に全体を通読したところ、妙義（奥深い教え）は二三句のみ、大半は取るに足らぬ譬たとえ話ばかりに思え、「もはや尊ぶ気は失せた」のでした（『八重やえむぐら律』卷三）。

第二が十九歳の時、岩頭がんとうという中国の禅僧の最期に絶望したことです。岩頭が優れた禅僧であつたにもかかわらず、賊に殺され非業の最期を遂げたことを知ると禅にも失望し、「逃れえぬ以上、我も人も皆もろとも地獄に堕ちればよいだけのこと」、「これからは漢詩と書法を学んで名を挙げ、後は野となれ山となれだ」と、投げやりな気分になってしまいます（『壁生いっまでんぐ草』卷上）。

かくして半ば自暴自棄になっていた白隠に  
 対し、進むべき道を示したのが『禅関策進』  
 に記される慈明引錐の話——慈明という禅僧  
 が錐で太股を刺して眠気を払い坐禅に励んだ  
 という故事——でした。これに感銘を受けた  
 白隠は一心不乱に坐禅し、無字の公案（禅の  
 課題）に取り組みます。そして二十四歳の時、  
 深夜に遙か遠くから聞こえる寺の鐘を耳にし  
 て大悟し、思わず「岩頭和尚は達者でござっ  
 た」と叫んだのでした。

この体験に白隠は慢心してしまいますが、  
 その増上慢は信州（長野県）飯山の正受老人  
 （二六四二—一七二二）によって打ち砕かれ  
 ます。正受は白隠の悟境を認めず、幾つもの  
 公案で責め立て、その自信を粉碎してしま  
 いました。かくして白隠は再び公案に参究し、  
 やがて深い三昧に入ります。そして托鉢中に

毆られ氣絶したことを契機として大悟し、正  
 受の許しを得るに至りました。

ところが白隠は後に再び、深い恐怖と疑念  
 を抱くにいたりします。それは二十五（あるい  
 は二十七）歳の時に目にした言葉、「たとえ  
 智者高僧といえども、菩提心の無い者はみな  
 尽く地獄に墮ちる」に因るものでした（『壁  
 生草』巻上、『御垣守』）。これを見た白隠は、  
 幼きおり母に手を引かれ地獄の話聞いた時  
 と同様、恐怖のあまり全身の毛が逆立ち、そ  
 れ以降「菩提心とは何なのか」という疑問を  
 抱きつづけることになったのです。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課  
 程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所副所長・  
 准教授。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による  
 中国仏教の再編』（法藏館）。

# お願い

## 花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

\*ペ切りは毎月1日です。

## 花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64  
妙心寺派宗務本所内編集室  
俳壇／歌壇／花園 係

\*住所、氏名を必ずお書きください。

\*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

\*なお投稿はお返しいたしません。



「いつもココロに花園を」  
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第69巻 第5号(通巻第813号)  
令和元年5月1日発行(毎月1日発行)  
定価55円

【発行人】栗原正雄

【編集人】畠中寿浩

【印刷人】喜田眞司

【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園  
妙心寺派宗務本所 教化センター  
振替／01060-9-1400番  
電話／075-463-3121番

## 表紙の絵

「幸せは必ず足下にあり」



本当の幸せは「なるもの」でも「掴み取るもの」ではなく、今ここにある幸せに気づく事。  
絵・花咲幸絵

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。  
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

\*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。